

総合的な学習・探究の時間

I 総合的な学習・探究の時間の学習目標

- (1) 自らの興味・関心と社会及び学術上の課題との接点に問いを見出し、主体的に解決に取り組む態度と行動力を身につける。
- (2) 情報を適切に収集・整理し、事象を多様な視点からとらえ、論理的に考察し、妥当な結論を導く力を身につける。
- (3) ポスター発表、スライド発表、探究論文等の多様な形式で自らの考えを説得的に他者に伝える力を身につける。
- (4) 多様な価値観や背景をもつ他者を尊重し、協働して学びを深める力を身につける。
- (5) 既存の枠にとらわれず、柔軟で独創的な発想をもち、新しい価値を生み出す力を身につける。

II 総合的な学習・探究の時間の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	「総合的な学習の時間」 ・台東区地域（浅草、上野）学習 ・台東区地域行事についての探究活動 ・職業理解学習	・台東区地域フィールドワーク ・台東区地域のポスター等制作（高大連携授業） ・白鷗祭でのポスター等展示 ・地域行事主催者の講演 ・プレゼンテーション研修 ・学年地域探究発表会 ・「探究祭」での最終成果発表会 ・進路講話 ・インタビューワークショップ
	2年	「総合的な学習の時間」 ・京都・奈良と比較した台東区地域（浅草、上野）についての探究活動 ・「都内巡り」にかかわる探究活動 ・「修学旅行」にかかわる探究活動 ・職業学習	・グループでの探究学習 ・都内巡り ・白鷗祭での成果発表 ・職場体験 ・学年探究発表会 ・「探究祭」での最終成果発表会
	3年	「総合的な学習の時間」 ・多様な探究テーマによるグループでの探究活動 ・アメリカ研修旅行にかかわる学習	・多様な探究テーマ、調査方法との出会い ・質の高いRQ、調査方法、分析方法の理解 ・グループでの探究サイクルの実践（リサーチクエスションの設定、仮説設定、調査、分析、考察、まとめ） ・「探究祭」での最終成果発表会
高校段階	4年	「総合的な探究の時間（人間と社会）」 ・探究論文執筆に向けた準備 ・ボランティア活動	・自身の興味、関心と社会的・学術的課題を関連付けたテーマ設定 ・5年時の論文執筆に向けた研究計画書の作成 ・地域行事でのボランティア活動 ・「探究祭」での最終成果発表会
	5年	「総合的な探究の時間」 ・研究計画書に基づく探究活動の実施 ・探究論文執筆	・調査や実験の実施 ・中間報告書作成 ・中間発表会 ・論文執筆 ・学年発表会 ・「探究祭」での最終成果発表会
	6年		

教科名 総合的な学習の時間

科目名 **総合的な学習の時間**

対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 活動に主体的に取り組み、課題を発見し探究していこうという姿勢を身につける。
- 2 協働して探究活動に取り組む態度の素地を身につける。
- 3 自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えることができる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 グループでの主体的・協働的な活動を中心とする。
- 2 ボランティアとのフィールドワークや高大連携授業など、校外の人材と協働して活動する時間を多く確保する。
- 3 プレゼン研修等によって理解した探究やプレゼンに関するスキルを、実際に活用する場面を設ける。

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 なし

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	春休み 宿 題	なし	なし	なし	0	
	4	なし	オリエンテーション (ホームルーム合宿)	・浅草上野地区の歴史および行事の探究活動の意義、進め方を学ぶ	2 (14)	
	5		浅草上野地域フィールドワーク	・浅草上野地区でフィールドワークを実施する	8	
	6 7		浅草上野紹介ポスター等の制作	・神田外語大学との高大連携授業で、浅草上野紹介ポスター等を制作する	8	
	夏休み 宿 題	なし	台東区子供歴史文化検定の学習	・白鷗祭での展示準備	0	
二 学 期	9	なし	台東区子供歴史文化検定	・夏休みの学習成果を検定で確認する	1	
	10		地域行事調べ学習 地域行事主催者に話を聞く	・地域行事に関して調べ学習をする ・浅草上野地区における地域行事の歴史的背景や現状についてのお話を伺って、グループ別に課題解決に向けたアイデアを考える	2 1	
	11		プレゼン研修 発表準備	・プレゼン研修でプレゼンに必要な基本的なスキルを身につけて、発表の準備をする	6	
	12		地域探究発表会	・パワーポイントで発表する ・各行事関係者からのフィードバックを受ける	2	
	冬休み 宿 題	なし	職業インタビュー	身近な大人に仕事についてインタビューして、内容をまとめる	0	
三 学 期	1	なし	職業インタビューの共有	・各自の職業インタビューを共有する	2	
	2		職業観・勤労観を育てる 職業講話事前学習 職業講話	・適性に合う職業を知る ・事前に講師の方の仕事内容等を調べる ・仕事について具体的な話を聞く ・インタビューの仕方を学ぶ	4	
	3		最終成果発表会	・様々な職業について情報を共有する ・全学年が探究活動の成果を相互に発表する ・他の学年の発表を聴き、今後の探究活動の参考とする	6	
					計 56	
評 価						・活動に主体的に取り組み、課題を発見し探究していこうという姿勢が見られるか。 ・浅草上野地域や神田外語大学の方々と関わる機会を、自らの学びに活かそうとしているか。 ・自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるために必要なことを理解しているか。

教科名 総合的な学習の時間

科目名 **総合的な学習の時間**

対象 2 学年全員

I 学習到達目標

- 1 体験・調査・分析を通して、課題を発見し、解決に向けて仮説を立て、検証しようとする主体的な姿勢を身につける。
- 2 情報を適切な方法で収集し、様々な視点から分析する力を身につける。
- 3 班員と対話しながら、よりよい問いや表現方法をつくり上げることができる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 グループでの主体的・協働的な活動を中心とする。
- 2 「都内巡り」や「修学旅行」等の行事と結び付けて、「課題発見⇒調査⇒分析⇒考察⇒まとめ⇒新たな課題発見」という探究のプロセスを繰り返しながら、学習を進める。

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 岡本尚也「ゼロから始める探究活動－課題研究メソッドZERO」啓林館、2024年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト			
	4		オリエンテーション 「都内巡り」事前学習	・ 1 年間の活動の概要と目標を理解し、 学習の見通しを得る ・ 問い・仮説の設定、行動計画の立案	3
	5	なし	「都内巡り」 「都内巡り」まとめ	・ 現地での観察・インタビュー・体験 ・ 調査結果の整理と考察、発表	3
	6		浅草・上野地域の探究活動（1）	・ フィールドワークに基づく地域の魅 力・課題の洗い出しと問いの設定	3
	7		「修学旅行」事前学習	・ 京都・奈良に関する基礎調査 ・ 問いの設定、調査目的に応じた計画立 案（観察・体験・インタビュー等）	2
	夏休み 宿 題	なし	設定した問いに関する個人調査		
二 学 期	9	なし	職場体験の準備	・ 体験事業所の確認 ・ 事前訪問日時予約 ・ 事前訪問	3
	10		(宿泊学習) 「修学旅行」まとめ	(京都・奈良での現地調査) 比較から得た気づき・視点の整理	(21) 2
	11	なし	職場体験（3日間） 職場体験の事後学習	・ 各事業所での体験 ・ お礼状作成 ・ 発表原稿とスライド作成 ・ 発表会準備	21 4
	12		職場体験発表会 浅草・上野地域についての探究活動（2）	・ 1 年生に向けて発表 ・ 京都奈良と比較した解決案の再検討	3
	冬休み 宿 題	なし			
三 学 期	1	なし		・ 根拠に基づいた提案・考察のまとめ	2
	2		プレゼンテーションの準備 学年発表会	・ 発表資料の作成 ・ 1 年生に向けて発表する	3
	3		「探究祭」での最終成果発表	・ 全学年が探究活動の成果を相互に発 表する。他の学年の発表を聴き、今後 の探究活動の参考とする。	8
				計 78	
評 価					・ 修学旅行や都内巡りなどの体験を学びに生かし、振り返りを通して問いや見通しを改善しようとしているか。 ・ 目的に応じた調査方法を選択し、適切な方法で収集・分析できているか。 ・ グループでの対話や役割分担を通して、問いや探究の質を高めようとしているか。

教科名 総合的な学習の時間

科目名 **総合的な学習の時間**

対象 3学年全員

I 学習到達目標

- 自身の興味・関心をもとにリサーチクエスチョン（RQ）を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。
- 質の高いリサーチクエスチョンの設定方法、調査・分析方法を理解し、自分の探究に活用できる。
- 「RQの設定、仮説立案、調査、分析、考察、まとめ、新たな課題発見」という探究サイクルをグループで実践できる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- グループでの主体的・協働的な活動を基本とする。
- 少人数授業で、多様な探究テーマや先行研究に触れ、質の高いRQの立て方・調査方法・分析方法を学ぶ。
- 調べ学習、探究活動について、定期的に発表会を実施し、表現力を養うとともに、新たな課題発見の契機とする。

III 教科書・補助教材

教科書 なし

補助教材 岡本尚也「ゼロから始める探究活動－課題研究メソッドZERO」啓林館、2024年

IV 学習計画

学期	月	学習内容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	なし			
	4	なし	オリエンテーション	・1年間の活動の概要と目標を理解し、学習の見通しを得る	4
	5		探究スキルの基礎の習得	・多様な探究テーマ、先行事例に触れ、RQの設定方法、調査、分析手法を学ぶ	8
	6 7	なし	アメリカ研修旅行の準備	・渡航準備 ・事前学習 ・事前課題	6 8
	夏休み 宿 題	なし	(アメリカ研修旅行) ブックレポート	自らの関心のあるテーマに関する入門書、基本書についてのレポート作成	
二 学 期	9	なし	発表会	夏休みの調査についての発表	8
	10		グループでの探究サイクルの実践（1）	・探究テーマの決定 ・リサーチクエスチョンの設定 ・仮説の設定 ・調査計画の立案	8
	11 12	なし	グループでの探究サイクルの実践（2） 中間発表会	・班員で役割分担しての調査の実施 ・データ整理と分析 ・考察（仮説の検証） ・自班の探究における課題点の把握	8 8
	冬休み 宿 題	なし			
三 学 期	1	なし	グループでの探究サイクルの実践（3）	・中間発表での課題点の把握に基づいた、追加調査・分析の実施	8
	2		プレゼンテーションの準備 学年発表会	・発表資料の作成	6
	3		「探究祭」での最終成果発表	・全学年が探究活動の成果を相互に発表する。他の学年の発表を聴き、今後の探究活動の参考とする。	6
				計 78	
評 価					・自身と班の興味・関心をもとにリサーチクエスチョンを設定し、目的意識をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 ・質の高いRQの条件、調査方法、分析方法を理解し、自分たちの探究に適切に用いることができているか。 ・探究サイクルを、班の対話や役割分担を通して協働的に実践できているか。

教科名 総合的な探究の時間（人間と社会）
 科目名 **総合的な探究の時間（人間と社会）**
 対象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 横断的・総合的な探究活動を通じて、「課題設定力」、「文献調査力」、「データ分析力」の3つを重点的に育む。
- 2 個別課題探究活動における適切な研究テーマ・リサーチクエスションの設定及び予備調査を行い、研究計画書を完成させる。
- 3 学校所在地近辺の地域行事・伝統行事にボランティアとして参画することで、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力や自らの価値観を高める姿勢を育成するとともに、社会に潜在する課題を見いだす力を育む。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 個別探究論文執筆のために少人数形式で個々の研究テーマ・リサーチクエスションの設定及び予備調査を行い、研究計画を完成させる。
- 2 地域行事へのボランティア参加については、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力や自らの価値観を高める姿勢を育成するとともに、社会に潜在する課題を見いだす力を育むために、事前学習・事後学習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 なし
 補助教材 岡本尚也「課題研究メソッド 2nd Edition」啓林館、2021年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考		
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容	
一 学 期	春休み 宿 題	なし	体験活動（年間を通して実施）	時期は各行事や交流相手の予定に準ずる	1 4		
	4	なし	オリエンテーション	・5学年で実施する探究論文、地域行事ボランティア参加についての見通しを立てる	1		
	5		興味関心と進路のつながりを考える	・昨年度までの探究活動を振り返り、自分の興味関心と進路のつながりを考える	2		
	6		テーマについて、知識や考えを深める	・探究につながるテーマについて調べることで知識を深め、話し合いを通じて考えを深める	2		
	7		個人探究テーマを決め、調査方法を検討する	・具体的なテーマを決め、調査方法を考える	2		
				リサーチクエスション(仮)を設定する	・仮のリサーチクエスションを設定する	1	
				リサーチクエスション(仮)を発表する	・仮のリサーチクエスションを発表す	1	
	夏休み 宿 題	なし	仮のリサーチクエスションに関する文献調査及び仮調査を行う。				
二 学 期	9	なし	文献調査及び仮調査の結果を発表する	・5学年探究論文のリサーチクエスション設定する	2		
	10		仮のリサーチクエスションを修正する	・仮調査の結果を受け、仮のリサーチクエスションの修正を行う	1		
	11		仮説を設定及び具体的な調査・実験方法の検討	・仮説を設定し具体的な調査・実験方法を検討する。その中で、リサーチクエスションをブラッシュアップしていく	3		
	12		リサーチクエスションを設定する	・大学院生のサポートでリサーチクエスションを設定する	3		
			研究計画書を作成する	・研究計画書を作成する	2		
	冬休み 宿 題	なし					
三 学 期	1	なし	調査・実験の実施	・調査・実験をスタートさせる	3		
	2		中間発表	・全学年が探究活動の成果を相互に発表する	2		
	3		「探究祭」での最終成果発表会	・他の学年の発表を聴き、今後の探究活動の参考とする ・4学年は、研究計画の構想発表を行う			
					計 3 9 (1 単位)		
評 価						<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に必要な知識及び技能を身につけているか。 ・主体的に取り組み、適切な課題を設定することができているか。 	

教科名 総合的な探究の時間

科目名 **総合的な探究の時間**

対象 5 学年全員

I 学習到達目標

横断的・総合的な探究学習を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質と能力、データ分析力、日本語での論文作成力、文章による表現・伝達力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える。

II 授業の進め方（授業形態等）

一斉授業および専門分野ごとの少人数指導を行う。
個別課題探究については、個別の論文アドバイザーの助言を受ける。

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 岡本尚也「課題研究メソッド 2nd Edition」啓林館、2021年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業 時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4		全体オリエンテーション ・年間計画の説明 5 年生の研究活動の流れ説明 ・アドバイザー発表 ・文献調査の仕方	3	
	5		調査・研究の準備 ・研究の実施(文献調査、アンケート調査など) ・研究ノートを作成する目的、記録すべきことの確認 ・調査・研究の軌道修正 ・研究ノートの作成	4	
	6		調査・研究・実験 データ整理・分析 研究のまとめ ・結果をまとめ、考察する (定量的、定性的なデータのまとめ方、分析方法) ・論理の組み立て方 (図・表の分析、文章などの分析、結論を導くためのロジック ツリー)	4	
	7		報告書の作成に向けて ・中間報告書の作成について理解する。 ・追加研究を行う。	3	
	夏休み 課題	実施 せず	中間報告書の作成		
二 学 期	9		中間報告書作成、発表 ・「中間報告書」に基づく中間発表と準備	4	
	10		中間報告書振り返りと提出 論文作成の基本 ・「中間報告書」まとめ ・論文の作成 (論文の基本的な構成、各項目の役割・書き方)	4	
	11		論文作成 ・論文作成(章・節の作成、パラグラフライティング)	4	
	12		論文作成 各個人の端末を使用して論文作成 ・アドバイザーから指導を受けながら論文作成を進める	4	
三 学 期	1		論文完成、発表準備 各個人の端末を使用して論文完成 ・アドバイザーから指導を受けながら論文完成を進める	9	
	2		発表準備 口頭発表に向けた準備を行う		
	3		「探究祭」での最終成果発表会 全学年が探究活動の成果を相互に発表する。他の学年の発表を 聴き、今後の探究活動の参考とする。5 学年は、完成した探究 論文について発表する。		
				計 39 (1 単位)	
評 価					・年間を通して課題研究へ主体的に取り組んでいるか。 ・出席状況や成果物(研究計画書、夏季研究報告書、探究論文)の状況や学習に対する意欲や態度は良好か。 ・成果物やプレゼンに表れる思考力、判断力、表現力などに加えて、生徒の自己評価や相互評価はどうか。 以上の点を総合的に評価する。